ちょい街なかのファーマーズハウス

駅徒歩圏内には、住みたい。けれど自然に触れる機会が少なく、息はつまるばかり。そんな悩みを持つご家族は多いでしょう。これまでの駅徒歩圏内のマンションや戸建住宅ではお隣さんとの距離も近すぎたり、庭もないため菜園をはじめたりアウトドアを愉しめる場所がないのです。だからこそ私達は、駅徒歩圏内で菜園をはじめたい方やアウトドアを愉しみたい方向けの庭付分譲住宅を提案します。駅徒歩 14 分の利便性。ゆとりのある土地面積。広がる里山の庭。段階に応じた『農』環境。自然に触れるために、遠出する必要はありません。ちょい街なかのファーマーズハウス街なか暮らしを愉しむ家族の住まいです。

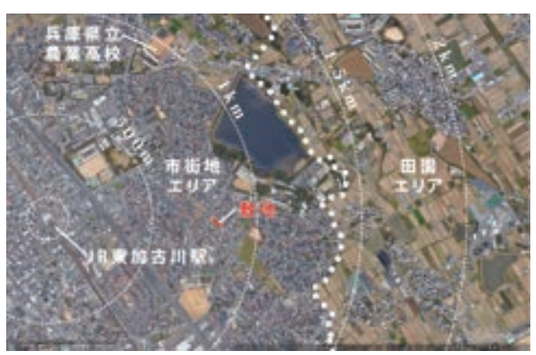
背景：暮らし方から、区画割を考える。

どれも同じように整形に細かく区切られ、規則正しく並ぶ分譲地は、分譲する側の分けやすさや売りやすさにより、境界線が引かれ、どこか窮屈に感じてしまいます。我々のような住宅を設計・施工する工務店は、この区切られた範囲の中で、周辺環境や敷地を読み込み、内と外とのつながりや少しでもこの敷地の中で最大限豊かな生活が送れるよう居場所づくりや収納・動線、性能、構造に至るまで工夫し続けてきました。そもそも工務店とは、『良い家をたくさんつくる』といった使命があると思っています。この『良い家をたくさんつくる』ことは、『良い街並みをつくる』ことであり、住んでいる人が、自分の街に誇りを持ち、その街以外の人からも憧れるような街にしていかなければならないと思っています。

そこで、これまでのようにあらかじめ決められた区画の中に家を建てるのではなく、そこでの暮らし方から考えた全体計画や庭、建物配置計画を行い、最後に境界線を決めるといった従来とは逆の方法によって、より良い街を、より良い家をつくれないかと考えました。

敷地：利便性＆自然環境の両立

敷地は、東加古川駅から徒歩圏内の閑静な住宅地で、隣には貸農園があり、ゆったりとした時間が流れる敷地です。また田園地帯も多く残り、農業をはじめ、個人レベルでの農園や家庭菜園を営む方も多く見受けられます。また近くには、農業高校もあり、本格的に農を学ぶ環境も近くにあります。東加古川駅から大阪駅まで乗り換えなしで移動することもできます。

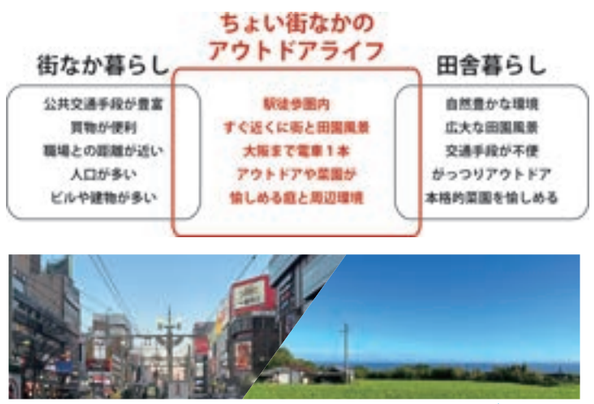


暮らし方：ちょい街なかのアウトドアライフ

リモートワークが普及した現在、私達の住環境の在り方も見直されてきました。田舎暮らしをしながら、週に１回程度職場へ出勤するといった方も多く見受けられ、『住む場所』＝『職場の近く』だけではなく、家での『暮らし方』からも住む場所を選べるといった『住む場所の選択肢』がとても広がってきたと思います。

アウトドアや菜園をはじめるなど自然に触れる機会を増やしたいけど、いきなり本格的な田舎暮らしをするのは不安だし、街なかの利便性も捨てられない。お隣さんとも仲良くしたいけど、知らない人とのコミュニティに入っていくのも不安だったりすると思います。

街なかの利便性もありながら、自然に触れられる機会も得られる環境であること、暮らし方から考えることで、同じ趣味趣向をもった家族が集まれること、新たなコミュニティをつくっていける新規分譲地といったことから、こういった不安が解消され、街なかでもアウトドアを愉しめる暮らし方が出来ないかと考えました。



全体計画・配置計画：片通路型→コモンアクセス型

東西に細長い敷地形状で、西側の短辺側からしかアクセスできない敷地でした。そのため従来のような区画割のしやすさを優先した通路と宅地を明確に分ける『片通路型』の区画割では、ただただ家が並び、共有スペースが単なる通路にしかなりません。

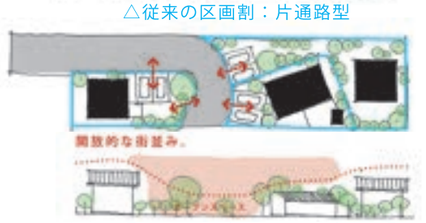
そこで、敷地中央で通路を曲げることで、各戸の駐車場やたまりとなるようなオープンスペースを中央に設けた『コモンアクセス型』としました。

そうすることで、同じ趣味趣向の住民同士の顔を合わせられ、コミュニティを育めるような広場の機能が生まれます。３軒のうち真ん中の１軒を平屋とすることで、より一層この広場の開放感を増すような建物ボリュームとしました。

また従来の分譲方法だと４軒に分割可能な敷地を、３軒とすることで、１軒あたりの敷地に余裕をもたせ、ゆとりある敷地面積とし、各戸の角度を変えながら生まれる余白には、植栽を配置し、緑豊かな環境が連続するような配置計画としています。

■区画割ダイアグラム

△従来の区画割：片通路型



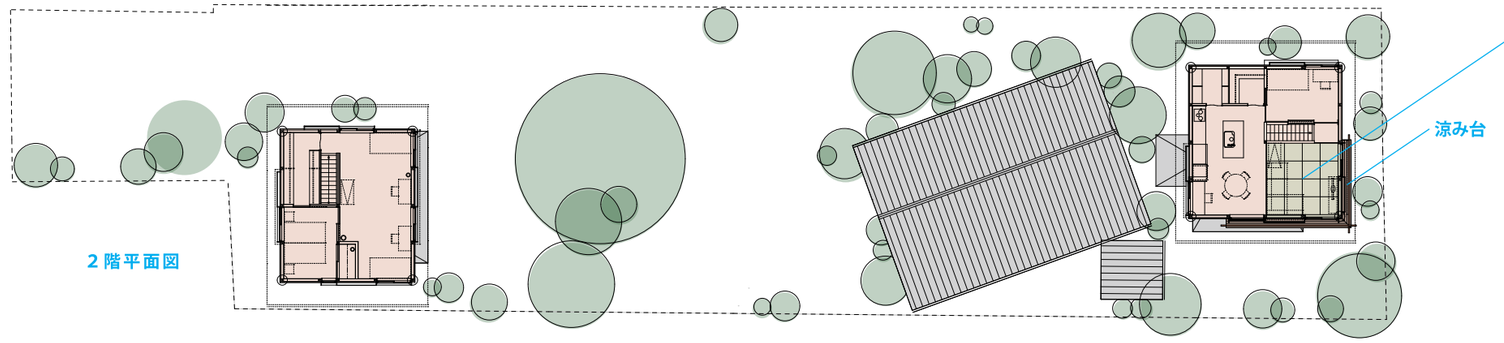
△今回提案の区画割：コモンアクセス型

街並み：変化がありながらも、一体感のある街

通路を彩る緑や塀、角度を振った建物配置や異なる階数、統一された外壁材など、変化がありながらも、一体感のある街にしています。

西側道路より見る

C 号地アプローチより見る



1 階平面兼配置図

C 号地：畳リビング

２階の畳リビングで、リビングの先にある涼み台で、より開放的な LDK となっています。その他２階には、２部屋に分けられるフリールームを設えています。

畳リビング

C 号地：アウトドマ

アウトドア x 土間。A 号地と同様に、玄関土間を広くとり、外へのアクセスも出来る掃きだし窓、庭で育てた野菜で食事も愉しめるようミニキッチンも設けています。お気に入りのアウトドア用品をただただ物置や倉庫に収納するのではなく、飾ったり収納しながら、使用でき、日常にアウトドアを取り込める土間空間となっています。

庭へとつながるアウトドマ

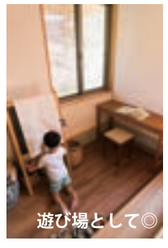
建物特徴：外と内をつなぐ居場所

こういった緑豊かなゆとりある環境の中で、のびのびと過ごして頂くためには、家の中はもちろん、内と外とをつなぐ場所が重要になってきます。この内と外とをつなぐ場所＝内でもない外でもない曖昧空間として、各戸それぞれ異なる特徴を設けています。

A 号地：土間デッキ

玄関を建物の出入口機能のみをもつスペースではなく、少しゆとりをもって設けることで、『出入口』から『内と外とをつなぐ居場所』として、使えるようにしています。また床をウッドデッキと同じ材料を使用した板土間とすることで、より一層部屋として室内側からも使いやすい仕上げとしています。アウトドアチェアを置いて、窓越しに見える庭木を眺めながら過ごす時間は最高です。

A 号地の外観


遊び場として◎

窓辺のベンチとリビングとのつながり

窓越しに緑が見える

ファームキットボックス

菜園初心者の方でも気軽に始められるよう、簡単に組み立てられる菜園キットです。直置型と高床型の２種類を用意しています。

高床型

直置型

B 号地：ハナレ＆ヒトダメデッキ

デッキを介してつながる小さなハナレは、いつもの日常に＋αの特別な時間をもたらしてくれます。籠れる趣味の部屋としても良いし、デッキと一体に使っても良い、またアウトドア小屋としても使えます。自分の家から窓越しに見える小さなハナレは、週末そこで何をしようといったワクワク感、何かあったらそこにいけるという安心感ももたらしてくれます。母屋とハナレに囲まれたデッキ空間は、屋外の開放感と屋根や壁に囲まれた安心感を兼ね備え、そこから動きたくなくなるぐらい居心地の良い場所で、人をダメにする＝ヒトダメデッキと呼んでいます。

ハナレ

ヒトダメデッキ

仕様：しそう杉を使った内外装

構造材、造作材、外壁材など、兵庫県産材であるしそう杉を採用しています。

しそう杉を使った外壁

しそう杉の梁現し

しそう杉を使った床材

主な仕様

◎屋根／ガルバリウム鋼板縦ハゼ葺き
◎外壁／しそう杉横貼＋オスモ塗装（黒）
◎外部建具／ヘーベシーベ＋樹脂サッシ（APW330）
◎外構／樹木、芝、木柵、コンクリート
◎床／Ｊパネルなぐり仕上げ
　しそう杉無垢フローリング、和紙畳
◎内壁／ビーナスコート
◎天井／しそう杉梁現し、杉板
◎設備／ハーフバス、タンクレス便器 etc…
◎造作家具／キッチン、パントリー、リネン、玄関、洗濯 etc…
◎断熱材／セルロースファイバー
◎構造／許容応力度計算（耐震等級３相当）
◎制震／制震ダンパー

概要

各戸別の面積や概要の一覧になります。

所在地／兵庫県加古川市平岡町新在家

自動車の場合：加古川バイパス『加古川東ランプ』から約４分

電車の場合：JR 神戸線『東加古川駅』下車徒歩約 14 分

A号地	B号地	C号地
◎構造規模／木造２階建て	◎構造規模／木造平屋建て	◎構造規模／木造２階建て
◎ＵＡ値／ 0.46	◎ＵＡ値／ 0.44	◎ＵＡ値／ 0.46
◎空調／パッシブエアコン（全館空調）	◎空調／ルームエアコン	◎空調／ルームエアコン
◎敷地面積／ 290.72 ㎡（87.94 坪）	◎敷地面積／ 282.25 ㎡（85.38 坪）	◎敷地面積／ 343.23 ㎡（103.83 坪）
◎1 階床面積／ 44..71 ㎡（13.52 坪）	◎1 階床面積／ 69.56 ㎡（21.04 坪）	◎1 階床面積／ 51.34 ㎡（15.53 坪）
◎2 階床面積／ 46.37 ㎡（14.03 坪）	◎離れ床面積／ 4.14 ㎡（1.25 坪）	◎2 階床面積／ 53.00 ㎡（16.03 坪）
◎小屋裏床面積／ 13.24 ㎡（4.01 坪）	◎延床面積／ 73.70 ㎡（22.29 坪）	◎延床面積／ 104.34 ㎡（31.56 坪）
◎延床面積／ 91.08 ㎡（27.55 坪）	◎駐車場／車２台分	◎駐車場／車２台分
◎駐車場／車２台分		